

## 第2学年および第3学年 音楽科

### 1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	<p>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり</p> <p>(イ) 声の音色の響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。</p> <p>(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な歌い方の特徴を感じ取れるもの。</p> <p>〔共通教材〕…我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの。なお、各学年において、以下の共通教材の中から1曲以上を含めること。</p> <p>「赤とんぼ」「荒城の月」「早春賦」「夏の思い出」「花」「花の街」</p> <p>「浜辺の歌」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期及び変声前後の声の変化について気付かせ、変声期の生徒を含む全ての生徒の心理的な面についても配慮するとともに、変声期の生徒については適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。</li> <li>・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。</li> </ul>
-------------	--

器 楽	<p>ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。</p> <p>・生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年を通じて1種類以上の和楽器を取り扱うこと。</p>
創 作	<p>ア 創作表現に関わる知識を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) 音楽や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴</p> <p>(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p> <p>・即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。</p> <p>(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠</p> <p>(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割</p> <p>(ウ) 音楽表現の共通性や固有性</p> <p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり</p> <p>(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性</p> <p>〔鑑賞教材〕…我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なもの。</p> <p>・批評する活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるよう指導を工夫すること。</p>

共通事項	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働き生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。
	・「音楽を形づくっている要素」については、指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして指導すること。
	・「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。

### 3 評価の観点及びその趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。